

番号	評価指標	学校としての取組や反省	保護者	教職員	学校	委員会	学校関係者 評価委員会のコメント
			H30年度 R1年度	H30年度 R1年度			
保護者・地域との連携	1	学校は、各種の便りや保護者会などを通して、どんな子どもを育てようとしているかを分かりやすく伝えている。	3.39	3.06	保護者 H30年度	3.44	<p>○ 仕事等で忙しい家庭もあるだろうが、教育への関心に大きい差が見られる。地域にも家庭教育学級等で声をかけていただいております、とても嬉しく思っています。学校は地域の文化の拠点でもあるので、学校からの情報(よさ)を、各地区毎に次に次にへと伝えていく必要がある。</p> <p>○ 地域の行事へ先生方にも参加していただいている。このことが地域の方々にも子ども達にも元気を与える。そして、地域の活性化にも繋がる。子ども達の社会性を育むためにも、各家庭における教育力が大切である。</p> <p>○ 9年生のチャレンジも子どもたちが主体的に動いて取り組んでいる。このことは後の財産になる。この思いは、保護者として、学校評価員としても学校がずっとつないでくれたらと感じる。</p>
	2	学校は、保護者や地域の願いに応える教育活動を積極的に行っている。	3.25	3.21			
	3	学校は、学校行事や参観日等で、保護者や地域住民と意見の交流ができる機会を適切に設けている。	3.47	2.29	3.45 R1年度		
	4	学校は、学校のホームページやフェイスブック、地域での作品展示やマスコミ等を利用した広報活動に取り組んでいる。	3.27	2.86	3.23		
	5	学校は、各種の便りや電話連絡、保護者会・家庭訪問等を通して、子どもの様子をつたえるなど家庭と連携を図っている。	3.52	3.06	3.07 H30年度		
小中一貫教育	6	学校は、幼小中一貫教育校のよさを生かした指導体制づくりを行っている。	3.31	3.07	3.07 R1年度	3.40	<p>○ 「子どもが主役」「自分で考える」「人と違う自分の考えかたに自信をもつ」等、自主性・主体性をさらに伸ばす取組を期待している。</p> <p>○ 教科等における学力差が出ているという話が聞かれる。幼小中一貫校のよさを生かしながら、改善して欲しい。</p>
			3.21	2.94	2.90		
	7	学校は、子どもが主役の「分かる！できる！」授業づくりに努めるとともに、家庭学習を支援している。	3.07	3.21	3.13		
			3.64	3.17	3.27	3.29	
			3.54	2.61	保護者 3.46		
			3.42	2.79	3.26		
			3.38	2.78	教職員 2.70		
			3.09	3.00	2.89		

番号		評価指標	学校としての取組や反省	保護者	教職員	学校	委員会	学校関係者 評価委員会のコメント	
小中一貫教育	縦の人間関係を生かした活動や行事の充実	8	学校は、縦の人間関係を生かした活動など、幼小中一貫教育校のよさを生かして、キャリア教育の充実に努めている。	○ 学校における行事等(ファミリー班での活動を含む)におけるねらいを明確にし、全職員で共通理解を図り、子どものよさやその頑張りをほめたり認めたりしながら、取り組んだ。また、悩みアンケートを実施し、子どもの悩み解消に向けての教育相談も実施した。 今後、いじめにつながる事案を見逃さず、一人一人を大切に集団活動の充実を図る必要がある。また、生徒指導を基盤としたキャリア教育の推進を図り、自己の有用感を今以上に醸成する必要がある。	3.43 3.29	2.94 3.36	保護者 3.43 3.26	3.40	○ 小中一貫校のよい面が見られている。アットホームで家庭的である。心が温かくなる。兄弟ではなくても、兄弟のように上の子が下の子の面倒をよく見てくれる。一方では、のんびりし過ぎる面が見られる。 ○ 今年度はキャリア教育がさらに充実している。様々な立場や職業の方々と触れ合い、学校とは違う世界観を見る事ができ、よい刺激になる。
		9	学校は、一人一人を大切に、いじめのない集団づくりに努め、子どもが活躍する場を設定している。		3.42 3.22	3.11 3.29	教職員 3.03 3.32		
その他		10	学校は、思いやりの心やルールを守る態度、協調性など、心を育てる学習活動を適切に行っている。	○ 命を大切にする教育を基盤とし、命について考える参観日や人権集会、立腰指導等を計画的に実施し、人権教育や道德教育、健康安全教育の充実に努めた。また、基本的な生活習慣の確立や規範意識の高揚を目指し、ハートフル委員会を実施し共通理解を図りながら、生徒指導の充実に努めた。	3.41 3.22	3.00 3.29	保護者 3.50 3.30	3.20	○ 子どもが少なくても、それぞれの問題や課題がある子はいるので、先生方も連携して見守ってくれている姿が見られる。 ○ 時代に即した教育(都市部の教育に劣らない)を実施していると感じる。今後も子どもの個性を伸ばす教育、実社会でも生き抜く力の基礎力醸成に期待する。
		11	学校は、情報・安全教育や性教育、食育など、生命や健康について学ぶ学習活動を適切に行っている。	○ 児童生徒1人1台のタブレット導入により、具体的な教育の情報化の推進を図った。タブレットで、自分の考えをまとめ、表現するための活用が多く見られるようになった。 今後は、情報教育に関する年間計画の基に、情報リテラシー及び情報モラルについての指導を充実する必要がある。	3.59 3.38	3.28 3.43	教職員 3.14 3.36		
評価委員から出された その他の意見や要望等			○ 全体的には、各種学校行事(運動会・朝霧祭ほか)や地元南郷に根ざした美郷科及び社会科、さらに、専門性の高い講演(一流の本物の講師)等、キャリア教育の充実など、子どもたちにとって大変貴重な、有意義な教育・体験・学校経営がなされていると感じ、心より感謝している。 ○ いろんな分野で、子ども達に、中央の講師の方等を、呼び込んで、講演や楽しいことを計画実行していただけて嬉しく思います。子ども達のやる気、そして、したいことを見つけてのきっかけやパワーになったと思います。子ども達の姿にも、少しずつ、やる気スイッチ、自発力が出てきているように見えます。校長先生を始め、諸先生方の努力に、感謝いたします。よい事を次に繋げる事は、なかなか難しい事ですが、校長先生の思いは是非、次の方に受けついで欲しい。						
校長所見			○ 今後も、子どもたちに「自信」「誇り」「力」を育むため、家庭や地域の方々と積極的な交流を図り、学校外からの必要な情報を収集できる開かれた学校づくりを目指すとともに、アンケート結果や学校関係者評価委員の意見等を参考にしながら、次年度の学校経営に生かす。 ○ 全職員が一枚岩となり、子どもたちに「自信」「誇り」「力」を育むため、論議を重ね、目的を明確にした教育課程のスクラップアンドビルド推進を通して、働き方改革をめざす。						